

## 【常金丸学区】学校再編に係る地域説明会 概要

\* 分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】 2019年（平成31年）4月27日（土） 19:00～21:30

【場所】 常金丸小学校 体育館

【出席】 参加者 約160人（地域、保護者）

行政 12人（教育次長、管理部長、学校教育部長 他）

### 【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ（教育次長）
- 3 説明
  - ・ 常金中学校と新市中央中学校の再編について
  - ・ 常金丸小学校の移転改築について
- 4 意見交換
- 5 閉会

### あいさつ

#### （教育次長）

今日は、常金中学校と新市中央中学校の再編、常金丸小学校の移転改築について教育委員会の考え方を説明させていただく。保護者の皆様からの早期の説明会開催の要望があり、この場を設定させていただいた。

3月に再編と移転改築の方針を発表した。学校再編がなぜ必要なのか、お話させていただきたい。

全国的に少子化が進む中、福山市においても子どもの数が1980年頃に比べて、約4割減少しているが、学校の数は、分離新設した当時からほとんど変わっていない。現在、本市には、小中あわせて111校ある。学校に通う子どもの数が減り、歯止めがかからない状況。

そうした中、これからの変化の激しい社会を生き抜く子どもたちには、多様な人と触れ合う中で、様々な意見を聞きながら、自ら考え、仲間と協働して、学びを進めていく教育環境が必要である。

現在、学校では、主体的、対話的で深い学びを進めるために、「福山100NEN教育」の取組を進めている。小規模校は、子どもたち一人ひとりに目が行き届く面もあるが、一定の集団を基礎とする学校教育の視点から少子化を考えると、教育環境を整え、一定規模の集団を確保することは不可欠と考えている。

加えて、学校施設の老朽化も進み、これから建替えを迎える時期がやってくる。より効果的な教育を進めるためのICT教育機器の整備や、近年の地球温暖化の対応として空調設備の整備も必要になる。教育費を効果的に投入し、教育環境を整えることも考えていかなければならない。

少子化の影響により、教職員のなり手の減少という事態にも直面している。学校の規模を確保する中で、福山市全体の学校配置の見直しは避けては通れない時期にきている。

教育委員会としては、将来を担う子どもたちに、必要な力を付けていくために、集団の中でしっかり学びを作っていく取組をしていきたい。

今後、新市中央中学校の関係地域においても、同様に説明をしていく。本日は、教育委員会の考え方をしっかり説明し、皆さんからご意見、ご質問をいただきたい。

## 意見交換（出席者から出された意見等）

### ■学校再編に関すること

○ 常金丸学区は、地域とのつながりが深く、子育てがしやすい環境である。学校がなくなると、この地域に住んで子育てしようという選択肢がなくなる。少子化対策のためにも、福山市のモデルとなるような小学校、中学校と公民館を一体型にした複合施設の整備を検討するなど、この計画を再考できないか。

→（回答）

教育の充実を図り、福山で学ばせたいという思いが、福山市への移住、定住につながると考えている。これからの変化の激しい社会を生きていく子どもたちに、必要な力を付ける効果的な教育を行っていくためには、望ましい教育環境のあり方、市全体の学校再編について考えていかななくてはならない。

常金丸小学校の施設整備については、学校と公民館、地域の連携が図られ、地域の皆さんと子どもたちのふれあいができるものとなるよう、検討していきたい。

○ 資料にある児童生徒数の推計値はどこからのデータか。本当にこのようになるのか。

→（回答）

あくまで推計であるが、住民基本台帳の常金丸学区の子どもの数を基に入学率や進級率を計算し、算出している。

○ 行政が再編の計画を作り、地域に示すというやり方は、一方的で納得がいかない。

→（回答）

今後の社会の変化を見据え、子どもたちに必要な力を付けることができるよう、主体的、対話的で深い学びの授業づくり、教育活動ができる学習環境にするためには、この計画が最良と考え、お示ししている。子どもたちにどのような環境が必要かについて、意見をいただき、議論していきたい。

○ 再編の計画を作るにあたって、過疎（小規模校）を大切にするという意見は出なかったのか。

→（回答）

学校再編に取り組むにあたっての基本方針は、子どもたちにとって望ましい教育環境はどうあるべきかということについて、学識経験者や地域、保護者の代表者で構成する学校教育環境検討委員会の意見（答申）や、現場の教員の意見を基に策定している。様々な角度から検討し、この計画とした。理解を得ながら進めたい。

教育効果を高める授業づくりや学校運営を行うためには、少人数よりも一定の集団規模がある方がよいということは、教員アンケートからも出ている。一定の集団規模の中で、子どもたちが、切磋琢磨しながら、学び合い、力を伸ばしていく環境を作っていくことが大切である。

○ 鞆は走島から1時間以内の通学距離に学校が必要ということで小中一貫教育校が実現できたと説明があった。常金丸小と常金中は、小中一貫教育校（義務教育学校）にはならないのか。

→（回答）

鞆の浦学園は、常金丸小と常金中を小中一貫教育校とした場合とほぼ同規模の学校だが、市全体の学校配置を考えたとき、走島から子どもが概ね1時間以内に通学できる場所に学校が必要であった。

また、2013年度から韮中学校区を連携型小中一貫教育モデル中学校区に指定（3中学校区の一つ）しており、施設一体型の小中一貫教育校として、その取組の成果を他の校区へ普及させていくため、義務教育学校として整備した。

学校教育には、一定の集団規模が必要であり、子どもたちにより力を付けていく、子どもたちの可能性をより引き出すことのできる、主体的・対話的で深い学びの授業づくりができる教育環境（学校規模・学級規模）を作ろうとしている。

今後、1学年1学級の単学級の義務教育学校を整備することは考えていない。常金中についても、小中一貫教育校の検討もしたが、規模が小さく、この計画とした。見直しは考えていない。

○ 教員にとってアンケートについて、望ましい学級数とあるがこれは何を聞いた設問か。

→（回答）

教育効果が発揮できる学校規模について、1学年あたりの望ましい学級数を聞いた。

（教員の約9割が、3学級、4学級と回答）

○ 移転して建てるのであれば、災害の時に安全に避難できる場所に建ててほしい。小中一貫併設の校舎になれば、複数階になり安全なのは。

→（回答）

洪水の場合、県道まで浸水するが、新しい小学校の校舎内の上層階で水が引くまで待機することができる。

○ 再編の意味を新市中央中学校の人は理解していない。例えば、新しい学校になると制服が新しくなる、体操服も新しくなる、校歌も校章も新しくなる。

→（回答）

新市中央中学校の3つの小学校区にも、今後、学校再編の考え方や、再編後の新しい学校の校歌や校章、制服等を協議して決めていくことになることを説明する。

○ 国には、少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業、小規模校を存続させる場合の予算などがあるが、こうした予算の活用について検討はされたか。

→（回答）

学校再編により教育内容や教育環境を充実させていくことを考えており、小規模校を今のまま維持するための予算を使うことは検討していない。

○ 学力や成績を向上させようとする私立や県立の学校の学級規模は、20人規模である。この地域で、親の負担なしに通える学校は常金中学校しかない。

→（回答）

仲間と意見を交わし、様々な考え方にふれ、自分の考えを伝える。そうした過程を通して様々な力を付け、可能性を伸ばしていく。今のままの学校が良いという思いは理解できるが、将来を見据えると、このままで良いということはない。

常金中学校の良さを引き継ぎ、より教育効果が高まるよう、学校再編を進めていく。より良い教育をしていくため、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をいただきたい。

○ 「すべては子どもたちのために」と言うが、そうっていない。様々な人の意見を聞く、様々な世代の人と関わることが一番重要で、それがコミュニケーション能力や課題解決能力を高めると考える。保護者と子どもと先生、地域が一体でやっている今の環境が一番。今の6年生は、自分が常金中学校に行くのか、新市中央中学校に行くのかを、あと半年で決めなければいけない。

10年、20年先を見据えるのであれば、再編をして学校をなくすのではなく、10年、20年先にどうやったら子どもが増えるのか、中学校を残してどうやったらよい環境が作れるのか前向きな話がしたい。

→ (回答)

行政、我々大人は、子どもたちのためにより良い教育環境を整え、より良い教育を行っていく責任がある。常金中学校の生徒数が減少する中、教育も大きく変わっていく。どのように学ぶかが重要であり、授業を変えていくことが求められている。学校をなくすという考えではなく、新しい学校を作り、子どもたちにとって、より良い学びの環境にしていくという考えである。

○ 学校再編について、市議会本会議や常任委員会で話をされているということだが、その内容は。

→ (回答)

常金中学校と新市中央中学校の再編、常金丸小学校の移転改築について、3月議会で説明をした。議会からは、しっかりと住民に説明し、理解を得ながら進めるようにとの意見があった。再編計画を見直すべきだという意見はなかった。

## ■教育に関すること

○ 今の取組を大切に引き継いでいくとあったが、新市中央中学校区はどうなのか。再編で学力は上がるのか。

→ (回答)

新しい学校の教育課程は、広がった地域の資源、素材を基に、新たに作っていく。それぞれの地域の良さを取り入れた教育活動が展開できるよう教育課程を編成する。学力も高まるように、教育活動を考えていく。

○ 「21世紀型“スキル&倫理観”」を育てると言うが、他の地域では、地域の子どもの話をするような機会や地域と一緒に何かやることがないという話を聞く。常金中学校の取組は、大事なコミュニケーション能力を育てている。どうやってこれを新しい学校に引き継ぐのか。規模が大きくなっても取り組めるのか。

→ (回答)

常金中学校と地域との取組により、生徒には、地域の方としっかりコミュニケーションをとる力が養われている。優れた実践や地域を生かした取組は、新しい学校の教育活動に取り入れていくとともに、さらに発展した教育活動を考えたい。

○ 学校では、コミュニケーション能力を養うような取組ができています。こうした取組を実際に見てほしい。

→ (回答)

常金丸小学校と常金中学校は、地域と子どもたちの関わりが密で、子どもたちに、地域の方への感謝の思いや、地域に貢献しようとする心が育っていると聞いている。再編しても、子どもたちはこの

地域に住んでいる。これからも、子どもたちのことを支えていただくことをお願いしたい。再編後の教育環境では、友達が増える、様々な考えや個性を持った子どもたちと関わることで、今持っているコミュニケーション能力がさらに育成されていくと考えている。

○ 「子どもたちのために」と言うが、子どもたちに対するアンケートはない。アンケートをとってみてはどうか。コミュニケーション能力を伸ばすために、この地域は最高。今授業は1クラス20人程度で、皆が発表し、授業に活気もある。

→ (回答)

子どもたちにアンケートを行うことは思っていない。今の常金中学校の状況がいけないとか、20人規模での教育がいけないわけではない。今後、子どもの数が減少していく中で、多様な人間関係の中で対話し、より一層コミュニケーション能力を付けていくことができる学校規模を整えていきたい。

○ 小中学校の保護者、数年後に再編を迎える子どもの保護者の思いが一番重要である。すでに再編が進む地域の子どもたちがどのように思っているのかアンケートはとっているのか。その結果から良かった点、悪かった点を検証し、改善し、生かすことが行政としてやるべきことである。子どもの意見を聞いて、その結果を出してほしい。

→ (回答)

現在再編に向けて取り組んでいる地域では、地域、保護者の理解のもと、新しい学校づくりに向け取り組むこととなった段階で、教育委員会が、直接子どもたちに再編について話をし、子どもたちから様々な質問や思いを聞いた。その後も、機会をとらえ、子どもたちに話をしたり、様子を見たりしている。

事前交流も計画的に進め、アンケートも取っているが、子どもたちは交流を楽しみにしており、その中で友達関係を深めている。再編後も、丁寧に子どもの姿を見るとともに、保護者からも様子を聞いていく。

## ■まちづくりに関すること

○ 前市長のとき、まちづくり計画を策定した。地域まちづくり計画の目的を理解しているのか。まちが廃れてしまえば市民税も減る。もう少し議会でも練ってもらいたい。もう少し市民の考え方を取り入れて協議してほしい。

→ (回答)

協働のまちづくりは、人口減少の中で、地域がそれぞれの良さを生かしながら、元気なまちにしていくために、地域課題の解決に向けて、地域の皆さんと行政が役割分担をしてみちづくりを進めていこうということで、10年以上継続してきている。常金丸学区では、地域の住民や団体による自主的、主体的なまちづくり活動が展開され、協働の取組が始まる以前から根付いてきていると思う。

人口減少が進む中、学校があれば地域が活性化する、学校を残して過疎化に歯止めをかけるという状況ではなくなっている。学校再編は、よりよい学びの環境づくりのために進めているものだが、人口減少とともに税収も減っていく中、限られた予算を、学校の改築や環境整備に効果的に投入していく必要もある。